

耕作放棄

と

5668種の田んぼの命

「田んぼ市民運動」を全国で展開



原耕造

NPO法人生物多様性農業支援センター理事長

受講のご案内

昨年十月、名古屋市中で生物多様性条約締結国会議（COP10）が開催され、多様な生き物や生息環境を世界規模で守ろうとの確認をいたしました。絶滅の危機にある生き物の50%が里山に生息していると言われており、私たちはこれまで、里山の生き物を復活させるために冬期湛水、不耕起移植栽培、田んぼの学校、生き物調査を行なってきた。その一環として、全国で田んぼの生きもの調査を展開している生物多様性農業支援センター理事長の原耕造氏を招き、講演会を開催いたします。ぜひご出席ください。

四月十七日(日)十五時

日時 二〇一一年四月十七日(日) 十五時
場所 白井市保健福祉センター
交通 北総鉄道白井駅下車十分(市役所隣)
内容 講演会「耕作放棄と5668種の田んぼの命」 講師 原耕造氏
対象 一般市民
定数 一〇〇名(当日参加可)
受講費 三〇〇円
助成 京葉ガス、イオン環境財団
申込み 上西(047-491-0660)

NPO法人しろい環境塾

第34回白井環境講座

「耕作放棄と5668種の田んぼの命」

講師 原 耕 造

(NPO法人生物多様性農業支援センター理事長)

- 1 耕作放棄地問題
- 2 価格政策（減反政策を含む）による農業保護政策の検証
 - イ 米価を下げた歴史的選択
 - ロ 日本の稲作農家の悲劇
- 3 耕作放棄と生きものの関係
 - 減反や耕作放棄をすると田んぼの命は生きられない
 - 里山とは人間と生きものが共に生活する空間
 - 人工自然と生きもの
 - イ 農作業と生きものの関係
 - ロ 欧米の価値観中心の戦後教育
 - ハ 生物多様性の視点で考える田んぼ
 - 命の生産・・・・・・・・命の単位
 - 食料の生産・・・・・・・・金の単位
 - ニ ラムサール会議での水田決議
 - ホ 生物多様性の視点で考える食の安全
- 4 生物多様性の視点を育む生きもの調査の取り組み
 - イ 生きもの調査の流れ
 - ロ 生きもの調査の方法
 - ハ 田んぼのめぐみ調査の結果分析
 - ニ 田んぼのまなざし調査
- 5 白井市の農業を考える
 - イ 白井市の耕作放棄地問題
 - ロ 白井市稲作農家の思いと悩みを全市民が共有化できるのか
 - ハ 地域の農地を考える視点
 - ニ 白井市農地の課題
 - ホ 白井市稲作経営と市民の係わり
 - ヘ 農事組合法人を設立して水田耕作を実施する

以 上